

青少年が適正にネットを利用するために  
「大人」が理解しておくべきこと

江戸川大学 情報文化学科 玉田和恵

# ネット社会を生き抜く知恵 「情報モラル教育」の目的

情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度の育成

情報モラル

=

日常モラル

+ 情報技術の特性

※特別な知識ではなく日常モラルを育てることが最重要

# 情報社会の進展、新たなSNSの登場

- 日常で触れる情報量や人との出会い方は、保護者世代が子供の頃とは大きく異なる。
- 一見すると、危険性の内容が変わったかのように見える。
- **でも、問題の本質は何も変わっていません。**

# ネット社会で起こる問題は3つに整理できる (これまでも、これからも構造は変化しない)

## 他者に迷惑をかける

- 人権侵害・誹謗・中傷
- 個人情報流出
- 著作権・肖像権などの侵害
- 不適切な情報の発信
  
- 気をつけていても起こる誤解
- 未熟なコミュニケーション

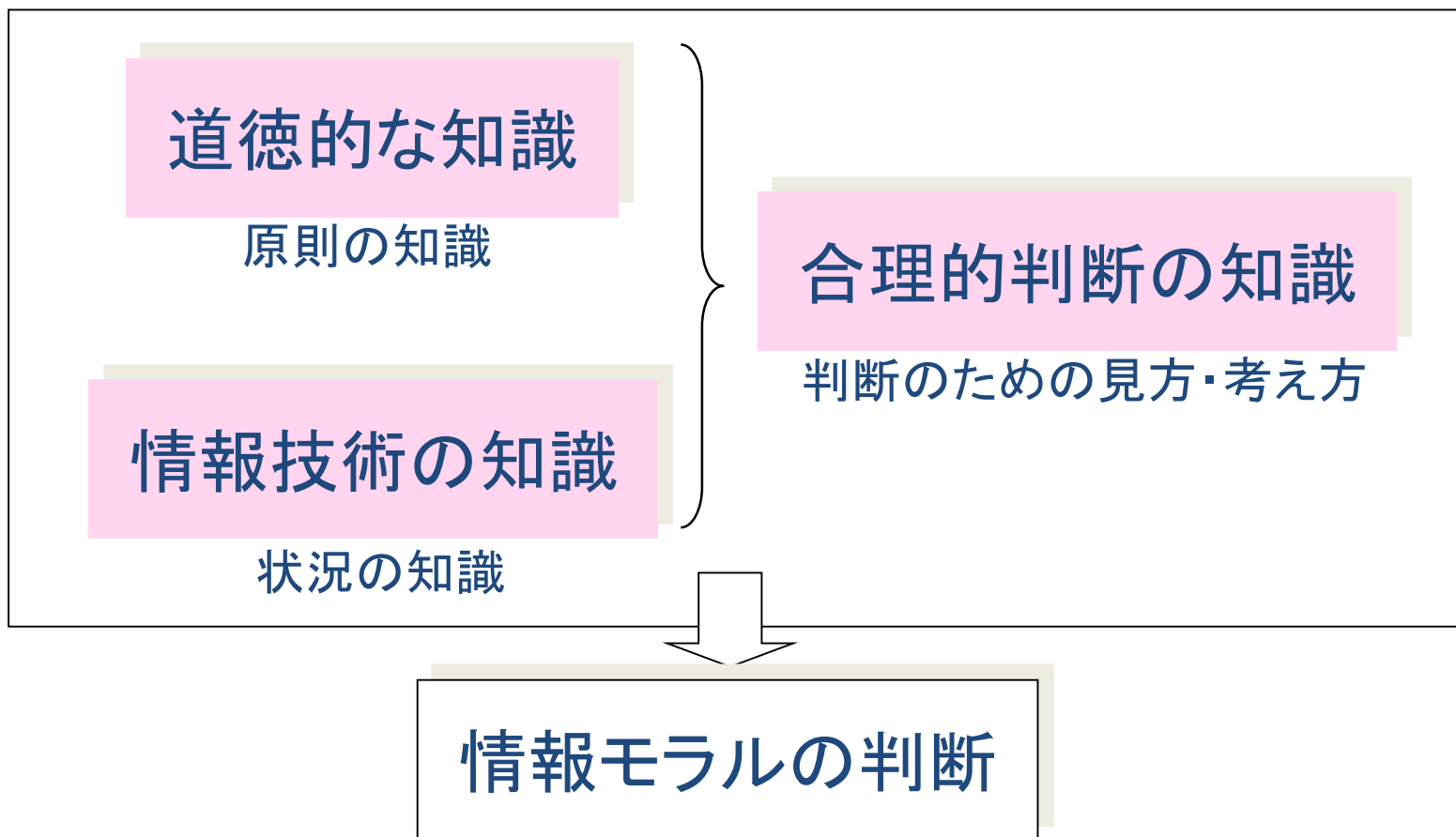
## 自身が被害に遭う

- 不正アクセス
- 個人情報流出
- 詐欺・不当(架空)請求
- わいせつ目的犯罪 誘拐
- 自我撮り被害
- 誹謗・中傷・脅迫
- 不正な情報による不利益

## 自滅

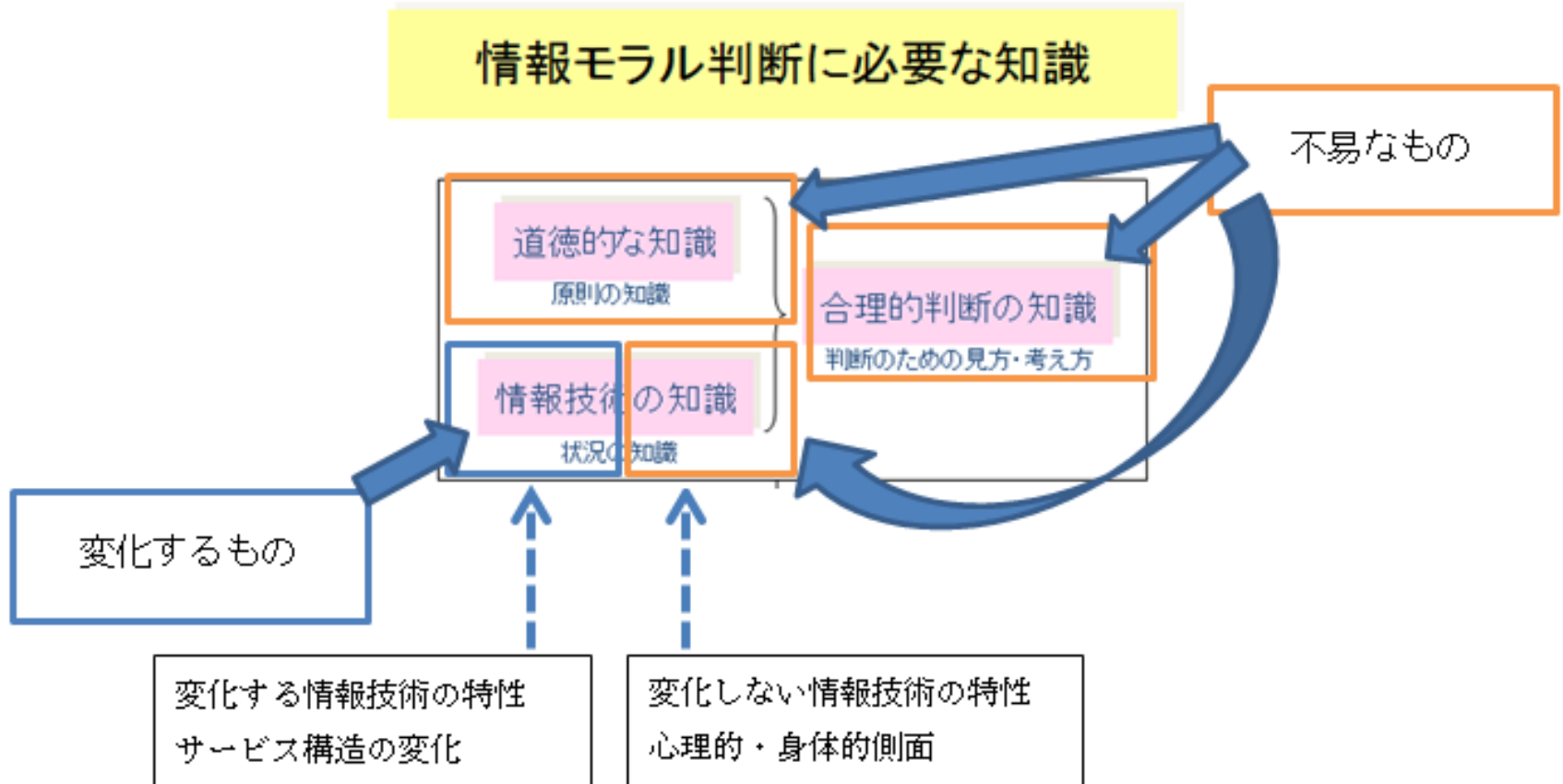
- ネット依存・使いすぎ
- ネット情報に翻弄される
- 自分好みの狭い世界に閉じ込められる

# 必要となる知識・考え方も変わらない



# 何が違って、何が変わらないのか？

情報モラルの判断 = 原則の知識(道徳的な知識)  
+ 状況判断に必要な仕組みや特性の理解



# 子供たちにはこんな風に見せてます

## 日常モラル

人権教育

- ・ルール・約束を守る
- ・人を思いやる
- ・正しいか確かめる など

日常モラル

仕組み

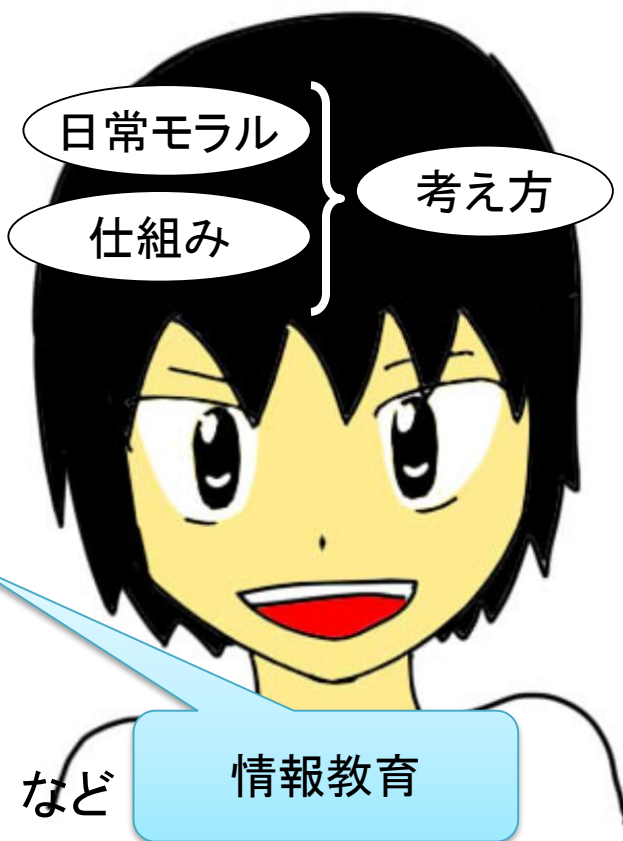
考え方

両方について  
考える

## 仕組みの理解

- ・インターネットの特性
- ・心理的・身体的特性
- ・機器やサービスの特徴 など

情報教育



# 【日常モラル】を育てることが大切

## ➤ 自己意識

- ①節度: 欲しいものを我慢できるか
- ②思慮: 正しいかどうか判断できるか

## ➤ 他者意識

- ③思いやり: 相手を思いやる気持ちがあるか
- ④礼儀: 相手を不快にしないように気をつけることができるか

## ➤ 社会意識

- ⑤正義: 正しいことを実行できるか
- ⑥規範: ルールを守ることができるか



# どんな仕組みがあるか (これらの特性を子供たちに理解させたい)

## インターネットの特性

公開である 記録が残る 情報が漏れる  
信用できない情報もたくさんある

変化しない特性

## 心理的・身体的特性

夢中になってやめられなくなる 対面ではなく伝わりにくい  
不安になる 感情的になりやすい

## 機器やサービスの特徴

小型化したのでどこにでも持ち運べる  
どこでも24時間つながることができる  
サービス側からさまざまな勧誘がある  
無料なので利用しようと勧誘してくる

変化する特性

# 変化しないインターネットの特性 (この特性の理解が最も重要)

- 発信した情報は、どこかに残る可能性あり(消せない)
- 匿名ではない、発信者の記録が必ず残っている

記録性

掲示板やSNSへの書き込みは、全世界に公開されている→世界中から誰でも見ることができる

公開性

信憑性

誰でも発信可能→いい加減な情報も多い。→正しいかどうかの確認をしなければならない。



公共性

費用は発信者だけではなく、受信者も支払わなければならない。ネットワークは公共の資源なので無駄遣いしてはいけない

流出性

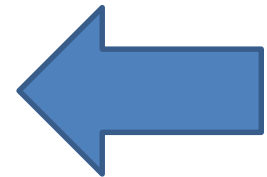
接続しただけで、自分のコンピュータに侵入されたり、何かを取り出されるような危険なページがある。

# 心理的・身体的特性

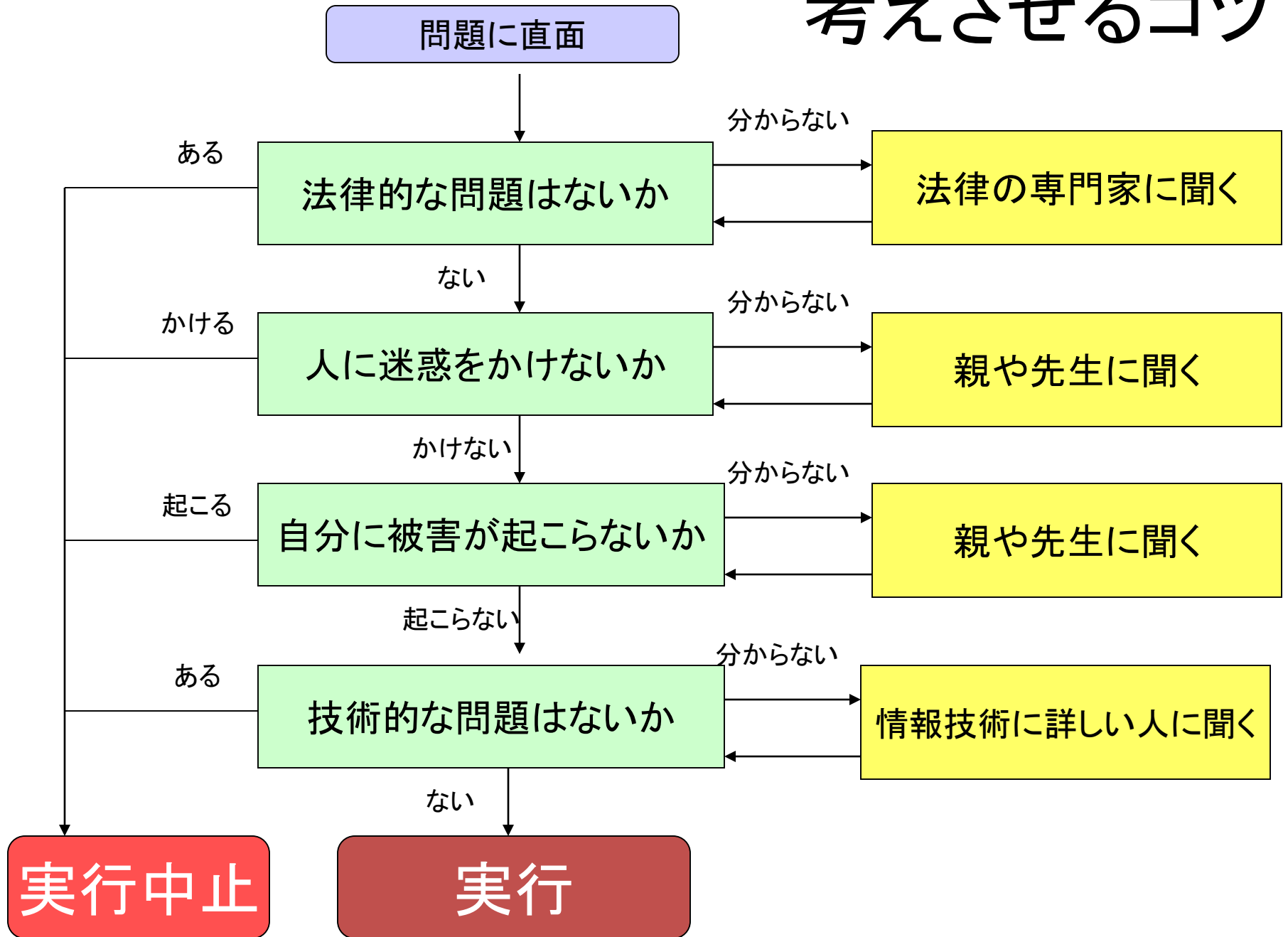
- 夢中になってやめられなくなる
- 対面ではなく伝わりにくい
- 不安になる
- 感情的になりやすい・・・必ずトラブルは起こる
  
- 同じ人が、同じ文章を見ても、その時の気分で受け取り方が違う

# 機器やサービスの特性

- 小型化したのでどこにでも持ち運べる
- どこでも24時間つながることができる
- サービス側からさまざまな勧誘がある
- 無料なので利用しようと勧誘してくる



# 考えさせるコツ



# まとめ

- 情報モラルとは
  - 「情報社会で適正な活動を行うための考え方と態度」
  - ほぼ大半は日常モラルであり、この日常モラルで足りないものが
  - インターネットの技術的な特性の知識である。
- 変化するもの・変化しないもの→構造は変わっていない
  - 情報化が進展しても「変化しないもの」
    - 日常モラル・心理的、身体的特性
    - インターネットの特性（公開性・記録性・公共性・信憑性・流出性）
  - 情報化が進展して「変化するもの」
    - 機器やサービスの特性
- 教師や保護者が、上記の内容を理解した上で
  - 日常モラルを育てながら、状況判断をするために必要となる
  - 最小限の「情報技術の知識」と「見方・考え方」を育てることが重要